

天文民俗調査報告－2023 年－

北 尾 浩 一 *

概 要

2022 年に続いて、沖縄本島、宮古島等の星名伝承の調査に取り組んだ。国頭郡本部町備瀬では、シニグに星が歌われている事例を記録した。糸満市山嶺毛のアガリミチブシ(オリオン座三つ星)への祈り、備瀬のシニグ等について、「星を語る」とともに、「祈る」「歌う」「踊る」という3つの面から、調査を実施した。また、2012 年に実施した大分県宇佐市、中津市を再調査した。

1. はじめに

1978年、新潟県佐渡郡相川町姫津(現 佐渡市)より星名伝承の調査をはじめてから 46 年目になった。調査を実施した地域は、「沖縄県」「大分県」である。

2. 調査の概要

2-1. 調査方法

漁業、農業等に従事した経験を持つ高齢者、経験がなくても年上から伝え聞いていた高齢者を対象にインタビュー調査を行なった。最も高齢の伝承者は昭和 3 年生まれ、最も若い伝承者は昭和 30 年生まれであった。

2-2. 調査地

2023 年は、次の 11 箇所で開催した。

- ・2月…沖縄県糸満市糸満、沖縄県島尻郡与那原町、国頭郡本部町備瀬
- ・4月…沖縄県宮古島市平良狩俣、平良大浦、池間島前里
- ・6月…沖縄県糸満市糸満
- ・9月…沖縄県国頭郡本部町備瀬、宜野座村漢那、糸満市喜屋武、山城
- ・12月…大分県中津市小祝、宇佐市長洲

3. 各地域の星名伝承

3-1. 大分県中津市小祝

◆昭和24年生まれの話

- ・昔はな、おやじから星やらオカのダテやらみて。
- ・いちばん最初に習ったのが北極星、ネノホシでいいよった。絶対に変わらない。いちばんひいきいの(低いの。高度が低いこと)、ひいきいほしが、ネノホシ。
- ・山口県のほうに漁に行った。帰るときは、ネノホシを鱸(トモ)に見た。

3-2. 大分県宇佐市長洲

◆昭和14年生まれの話

- ・最初に船に乗ったのは昭和31年くらい。木船(もくせん)ですよ。木船でその当時は焼玉だ。そのころ、底引き船だから、夜ばかり
- ・目覚まし時計積んでた。コンパスとか。だいたい位置を。遠方に行くわけでない。香々地くらいまでいく。その当時は山立て。森とか灯台とか。星はあまり関係ないね。星を見てどこやと決めたことはないね。操業するにあたってはね。
- ・北尾から「ネノホシって聞いたことありますか」と尋ねると、「聞いたことありますよ。ネノホシの星がなんになるとか言い伝えはあまり親から聞いてないね。山立てが中心だった」。ネノホシの名前を知っていたが、実際に目標として使ったことはなかった。

3-3. 沖縄県国頭郡本部町備瀬

◆シニグ

コロナ禍により中止になっていたが、2023年9月9日、4年ぶりにシニグが行なわれた。シニグについて『本部町史通史編下』には、「シニグ(シヌグまたは臼太鼓)は、稲の収穫後にその豊作を祝い、これ

*中之島科学研究所
starlore_kitao@yahoo.co.jp

を神に感謝するとともに、来年の豊作、豊穡を予祝（祈願）する祭りである」（本部町史編集委員会1994）とある。

備瀬のシニグでは、兼次辰雄氏より受領の資料によると、次のように天の群星と月が唄われている。

「ていんぬう ぶうーりひー ぶうーしひーやよー
 ゆうみーばー ゆうー まありーゆうい
 いさあーさあ さあーさー
 うやぬ いゆうし ぐうとうやーよー
 ゆうみーぬうーなー なあゆうみー すーれい」

天の星は数えれば数えることができるけど、親の教えは多すぎて数えることはできない、という意味である。

「あふしいー とうー ちいちゆうーとうよー
 みならあびいー ていー みりいばー
 いゝさーさー さあ さあー
 あぬふしいーやーあ うーしいひさーよー
 ちいーちゆうー や、ちゅー
 ちゅうらあーさあーあすーれい」

あの星（ふし）と月（ちちゆ）とを見並べて見れば、即ちくらべてみたら、星は光が弱く、月は明るくてきれいだ、という意味である。

「ちいちゆうば ちいちゆうー とうむう
 ていーよー あーきいぬー ゆうーやー
 しらぬー いーさーさーさあーさあー
 ちいーむうなあーげーさあー
 さあーとうがあーよー
 あゝしいびー なあー なあげえー
 さー すーれい」

月夜に旦那さんが 遊ぶのに夢中になり、夜が明けるのも知らなかった。気の長い彼氏、おくさんは待ちくたびれてしまった、という意味である。

◆昭和13年生まれの話

- ・旧7月26日 シニグ
- ・天ぬぶりぶし（群星）や おやのゆしぐうとやーよーぶりぶし 空いっぱい群星
- ・聞いたことがある星名…ニヌファブシ、ティンガーラ、ホーキブシ、インガンブシ（女性の髪束）、ヤウチ（星の特徴、見える時期については伝承していなかった）

◆昭和6年生まれの話（備瀬出身、普天間在住）

- ・ブリブシ、満天の星という意味
- ・ニヌファブシの唄「わんなちやうややわんどみあて」の意味…親が子をめあてにしていた。頼るという意味かな。親が子どもを頼る。

3-4. 沖縄県国頭郡宜野座村漢那

◆昭和30年生まれの話

- ・ニヌファブシ、動かない。南の方へ行けば南十字。
- ・ムリブシ、天の川みたいに大きいです、と思います。

3-5. 沖縄県糸満市糸満

糸満市山巔毛のアガリミチブシの祈りは、コロナ禍のため、2020年～2022年は儀式のみで、ハーレーは実施されなかった。2023年6月21日、4年ぶりに完全な形で実施された。

現在は午前9時頃からアガリミチブシへの祈りがはじまるが、もとは糸満市大里を午前3時頃に山川ノロは馬に乗って出発して、山巔毛の近くで休み、暗いうちから祈りがはじまった。

3-6. 沖縄県糸満市喜屋武

◆昭和10年生まれの話（喜屋武出身）

- ・ブリブシ。たくさん星が出て。（空いっぱいという意味でなく、たくさん星が出て。小さくかたまっているとは言われていない。したがってプレアデス星団ではないと思う）
- ・ユルハラスフニヤワンドミアテ。子どもが自分を目当てにしているという意味でしょう。

3-7. 沖縄県糸満市山城

◆昭和24年生まれ（糸満市山城出身）

- ・ユーバンマンジャー ユーバン：夕飯 マンジャー：ほしい、ほしがっている。食事のとき出ている。飯を食うのをながめている。
- ・ニヌファブシ、海に出れば目安。ワンナチャルウヤヤワンドンミアテ。自分を生んだ親は自分をめあてにしている、親は子供を大事にしてみてるんだよ。ユルハラスフニヤニヌファブシミアテ、ワンナチャルウヤヤワンドンミアテ。
- ・ムリブシ、星がいっぱい集まっている。大きく見えません。星がいっぱいたくさんあります。お月さんよりかなり広範囲。冬日が暮れてから。
- ・ニブグワブシで、ようするに L 字型です。柄杓ですよ。水なんかをくむ。柄杓を「にぶぐわ」。沖縄では小さいことを「ぐわ」というわけです。
- ・L字型にあるから、柄杓に似ているから、にぶぐわぶし

北尾から、ユルハラスフニヤニヌファブシミアテのニヌファブシとニブグワブシの違いを聞く。

- ・ニヌファブシ…その星は常に出てるわけよね。にぬふあぶし。
- ・ニヌファブシをニブグワブシと呼んでいるのじゃない？

北極星と北斗七星の区別をはっきりと記憶していな

いケースはよくある。ニブグワブシのニブは柄杓であり、小さな柄杓の星という意味である。同行の友利健氏はニブグワブシがニヌファブシ(こぐま座 α 星)を含んでいる「こぐま座 $\alpha\delta\epsilon\zeta\eta\gamma\beta$ 」の可能性を考慮して話者に質問したが、明確な答えはなかった。

桑原昭二氏が姫路市の広嶺山で記録した子杓の子星は、こぐま座 $\alpha\delta\epsilon\zeta\eta\gamma\beta$ を意味する(桑原1963)。北斗七星の杓に対して子杓、また構成する星が暗いことから子星であった。ニブグワブシが子杓の子星と同様、こぐま座 $\alpha\delta\epsilon\zeta\eta\gamma\beta$ を意味するかは今後の課題としたい。

3-8. 沖縄県宮古島市平良狩俣

◆昭和18年生まれ(狩俣出身)

- ・ニヌファブスというのが神さまの宿る星という意味で信仰の対象に。
- ・ニヌファブス(子の方の星、北極星)への祈りの言葉1…じょーとー(上等)のびすかず(いちにち)あらしふいーさまち(あらしてください)意訳「良い一日でありますように」
- ・ニヌファブスへの祈りの言葉2…かぎ(きれいな)びすかず(いちにち)あらしふいーさまち(あらしてください)。意訳「すばらしい一日でありますように」
- ・シャーカ(明けの明星)…シャーカですね、シャーカとは、早い朝という意味。シャーカブスは、もうほんこの家庭の主婦が午前3時頃、水を汲みにいくときの時間帯ですね。飲料水を井戸で確保するので、なぜ午前3時かいうと一番鶏が鳴くのですね。一羽がこけこつことなくと、あとは全部ないて。ということ、これも意味ありますわね。当時はお墓から幽霊が来て午後9時頃なったらまっくらで幽霊が集まって四辻で集まって、朝の一番鶏が鳴くとお墓にもどっていくという言い伝えがあつて。
- ・ウブズーブス(彗星)…ウブズーブス。ウブ:大きい、ズー:尾、ブス:星。ナガズーブスとも言う。ナガ:長い、ズー:しっぽ(尾)、ブス:星
- ・プスガマ…プスガマも小さい星という意味。ガマとは小。

3-9. 沖縄県宮古島市平良大浦

◆昭和3年生まれの話

- ・トゥゲブス、トゥギャブス…トゥギャはトゲ。3つ、3つある。6つくらいかたまりであがりよった、7つくらい。(オリオン三つ星に小三つ星がトゲが刺さっているように見えるからであろう。7つは、 η 星を含む?)
- ・ウブラブス…ウブラブス、旧暦9月朝。大きい。ウブラブスは一つの星。毎年見える。(明けの明星でなくシリウス)(北尾2023)(友利他2023)

4. 特筆すべき星名伝承

4-1. 2009年～2023年の調査の概要

大阪市立科学館研究報告誌(2010年～2024年)には、『天文民俗調査報告』と題して、前年の調査の概を報告してきた。明治生まれの話者に出会ったのは2011年が最後であり、2021年以降は大正生まれにも出会えていない。

年	調査箇所	最も高齢の話者	最も若い話者	特記事項
2009	54	大正3年	昭和24年	最初の調査地佐渡姫津を再調査／アイヌの星名伝承を調査
2010	52	大正2年	昭和24年	長崎県壱岐の調査／千葉県のカノーブス星名分布図作成
2011	25	明治44年	昭和27年	五島列島、奄美大島調査
2012	82	大正5年	昭和27年	瀬戸内海／山口県野島、大分県安心院にて星の俚謡記録
2013	7	大正12年	昭和22年	八丈島、神津島調査。シヨメ節記録
2014	20	大正12年	昭和23年	宮城県気仙沼市大島にて星の俚謡記録
2015	13	大正14年	昭和22年	人名にもとづく星名について考察。
2016	10	大正11年	昭和25年	七夕のローソクもらい(函館)を記録
2017	8	昭和4年	昭和20年	星名伝承の調査が困難であった。
2018	16	昭和2年	昭和25年	飛島を調査。
2019	38	大正15年	昭和36年	沖縄の調査を35年ぶりに再開。
2020	29	大正12年	昭和42年	波照間島、与那国島、粟国島等調査。
2021	9	昭和2年	昭和35年	コロナ禍調査困難。
2022	11	昭和3年	昭和35年	多良間・与那覇勢頭豊見親のにーり。糸満・アガリミチブシへの祈り
2023	11	昭和3年	昭和30年	備瀬のシニグ 宮古島のトゥゲブス、トゥギャブス
合計	385	明治44年	昭和42年	多良間にーり(歌う)、糸満山巔毛(祈る)

表1 調査箇所数と話者生年

人びとは、暮らしのなかで、「星を語る」とともに、「祈る」「歌う」「踊る」という身体表現を伝承してきた。シニグにおいては、星を歌うことと踊ること、アガリミチブシへの祈りについては、星への祈りとハーレーでの競い、そして、白銀堂、ヌンドウンチでの祈りが別々のものではなく全体として天文民俗を構成していた。

4-2. 伝承の記録内容の変化(大分県中津市小祝)

大分県中津市小祝について、2012年と2023年の調査を比較する。伝えている星名伝承は少なくなるが、ネノホシという星名と大切な星であるという伝承は伝えられていたケースである

調査年		2012年	2023年
話者生年		昭和10年	昭和24年
記録できた星名	北極星(こぐまα)	ネノホシ	ネノホシ
	プレアデス星団	スワルサマ	—
	オリオン座三つ星	ミツボシ	—
	伝承	ネノホシ言った。ぜったい、動かん。帰るとき、ネノホシあてにして帰らな。	絶対に変わらない。いちばんひいきいの。帰るときは、ネノホシを鱸に見た。

表2 調査比較(2012年と2023年、中津市小祝)

4-3. 伝承の記録内容の変化(大分県宇佐市長洲)

大分県宇佐市長洲について、2012年と2023年の調査を比較する。

調査年		2012年	2023年
話者生年		大正15年	昭和14年
記録できた星名	北極星(こぐまα)	ネノホシ	ネノホシ
	プレアデス星団	スボシサマ	—
	オリオン座三つ星	ミツボシサン	—
	伝承	ネノホシいうのは、木の根っこの根じゃ。この星はいつも動かんちゅう意味じゃよ。一個ある。北極星はネノホシって言った。北にあるんだ。ネノホシというのは、自分たち漁にいくとき、どっちが北、どっちが東、西って言って、星を見定めて方向わかる。	北尾から「ネノホシって聞いたことありますか」と尋ねると、「聞いたことありますよ。ネノホシの星がなんになるとか言い伝えはあまり親から聞いてないね。山立てが中心だった」。ネノホシを目標にした経験はなかった。

表3 調査比較(2012年と2023年、宇佐市長洲)

伝えている星名伝承は少なくなり、ネノホシについても北尾より尋ねてはじめて思い出した。星を必要とせずに、また、暮らしのなかの星の景観とのかかわりが極めて少なくなったケースである。

4-4. 伝承の記録内容の変化(沖縄県宮古島市)

沖縄県宮古島市について、2019年(保良)と2023年(狩俣)の調査を比較する。話者の生年が大正15年(2019年)と昭和18年(2023年)と20年近く若い親からの伝承を詳しく伝えていたケースである。

調査年		2019年	2023年
話者生年		大正15年	昭和18年
記録できた星名	北極星(こぐまα)	ニノファブス	ニヌファブス
	プレアデス星団	ムリブシ	シミブス
	オリオン座三つ星	ウシウマサダチ	—
	明けの明星	シャーカブス	シャーカブス
	彗星	—	ウプズープス ナガズープス
伝承	伝承	いちばん上が牛、真ん中が人間、下が馬で、秋にのぼる三つの星	ニヌファブスへの祈りの言葉…じょーとーのびすかずあらしふいーさまち

表4 調査比較(2019年と2023年、宮古島市)

5. おわりに

沖縄本島、宮古群島等の調査にあたっては、友利健氏に数々のアドバイスをいただくことができた。特に、宮古島狩俣の祈りの言葉の意識、大浦の伝承の記録については友利健氏、備瀬のシニグの調査にあたっては兼次辰雄氏、兼次松枝氏、福里美奈子氏にお世話になった。大分の調査にあたっては、甲斐之彦氏にお世話になった。

2023年の調査から言えることは、まだまだ星名伝承の記録が可能であるということである。星名伝承は、過去の失われたものではなく、いま語られ歌われている生きた文化なのである。

参考文献

本部町史編集委員会:1994, 本部町史通史編下, 本部町, p.239。
 桑原昭二:1963,星の和名伝説集,六月社, p.41-42。
 北尾浩一:2023,天文民俗調査報告(2022年),大阪市立科学館研究報告第33号, p.27。
 友利健、北尾浩一:2023, 多良間島のニーリに登場するウプラクーラについて(鹿児島年会での研究発表の補遺),天界 1176号,東亜天文学会,p168-171。